2　地理歴史・公民

学校番号	１０１３

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年前期
使用教科書	詳述　倫理　（実教出版）						
副教材等	４ステージ演習ノート　改訂版　倫理						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・良識ある公民としての考え方を身につける。
・「自分ならどう考える」の視点を持つ。
・他者の考え方（特に反対意見）を知った上で、自分の考えを構築する。

2 学習の到達目標

・諸資料に親しみ、倫理的思考力を培う。
・現代の諸課題を古代～現代の思想と結び付け、現代的アプローチから考察することができる。
・自分の価値観や感じることを他者と共有しあう。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	基本的な事柄を基礎に、良識的公民や青年期の人格形成に関連してその知識を身に着けている。	世界や日本の思想を内容や公民的観点から考察し、自分と他人の意見を公正に判断してその過程や結果を適切に表現している。	世界や日本の思想に対する関心と自発的に意欲的に追及するとともに、青年期の自分の問題にも向き合っている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	青年期の課題と自己形成	・青年期の意義 ・青年期の課題	a: 青年期の課題が、人生観・世界観・価値観の形成である。そのための知識として身につける。 b: 自分の体験をもとに青年期の意義と課題を考える。と同時に、広い視野にたって自己形成の探求をする。 c: 他者とともに生きる自分の生	グループ協議における発表、ノート、考査	グループ協議における発表、ノート	グループ協議における発表

			き方について考える。			
	西洋思想の需要と展開	・ギリシア思想等の古代思想 ・世界３大宗教 ・ルネサンス・宗教改革を転機とした近代思想 ・社会主義・実存主義・プラグマティズムなど現代思想	a: 各哲学・宗教の特質について理解する。 b: a の知識を手掛かりに、多面的多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 現代人間が直面する課題に、倫理的視点から他者とともに生き方を考える。	考査、グループ協議における発表、ノート、考査	考査、グループ協議における発表、ノート、考査	グループ協議における発表
	日本人としての自覚	・古代日本人・近世日本の思想、日本の仏教思想 ・近代日本哲学の成立と超国家主義 ・伝統の自覚と新たな課題	a：日本の風土や伝統、外来思想の受容と吸収及び、日本人の特質について理解する。 b: a を手掛かりに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 c: 日本の風土や伝統など日本人の人間観・自然観・宗教観に対する関心と生き方の探求。。	考査、グループ協議におけるノート、発表、考査	考査、グループ協議における発表、ノート、考査	グループ協議における発表
	現代の諸課題と倫理	・自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理(生命・環境・科学技術) ・社会と文化にかかわる諸課題と倫理(福祉・文化と宗教・平和)	a:現代の諸課題に関する知識を身につけている。 b：現代の諸課題を自己とのかかわりという観点から考察し、適せ湯に表現している。 c: 現代の諸課題を倫理的な視点に基づいて意欲的に追及しようとしている。	考査、グループ協議におけるノート	考査、グループ協議における発表、ノート	グループ協議における発表、

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。